

小中連携だより No. 47



令和6年3月13日(水)

広田小中連携推進会

文責 広田小学校 副校長 川口 耕治

広田中学校 主幹教諭 前川 勝則

廈門外国語学校とのオンライン交流会

去る2月28日(水)、本校と友好提携を結んでいる、中国廈門市にある“廈門外国語学校”とのオンライン交流会を開催しました。

年度当初(令和5年5月8日)、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受けて、今年度こそは廈門市を直接訪問すべく、国際交流委員を募集し、準備を進めてきました。しかし、6月以降、中国本土の感染状況の悪化が見られ、残念ながら今年度の訪問も中止となってしまいました。そこで、今年度も、オンラインによる交流会を開催し、小学6年生から中学3年生まで、総勢30名の国際交流委員の子どもたちの思いを中国の子どもたちに繋ぐこととしました。

当日のプログラムは以下のとおりです。

- (1) 開会
- (2) 学校代表挨拶(高橋正伸 校長先生)
- (3) 生徒代表挨拶(鈴木颯太さん【3の4】
徐若涵さん【3の2】)
- (4) 学校行事紹介動画(体育大会と文化発表会・
合唱コンクールを紹介)
- (5) グループ交流・フリートーク(40分)
- (6) 閉会

生徒代表挨拶では、国際交流委員長の鈴木颯太さん(3年4組)が英語で挨拶した後、徐若涵さん(3年2組)が中国語訳を行う形式で実施しました。2人とも、事前の準備をしっかりと行い、最上級生らしい素晴らしい姿を見せてくれました。

続いて、各校で作成した学校紹介動画を視聴しました。発展した廈門市の景色や、広田小中学校とは異なる廈門外国語学校の様子を見て、子どもたちは興味津々の様子でした。その後、廈門外国語学校の

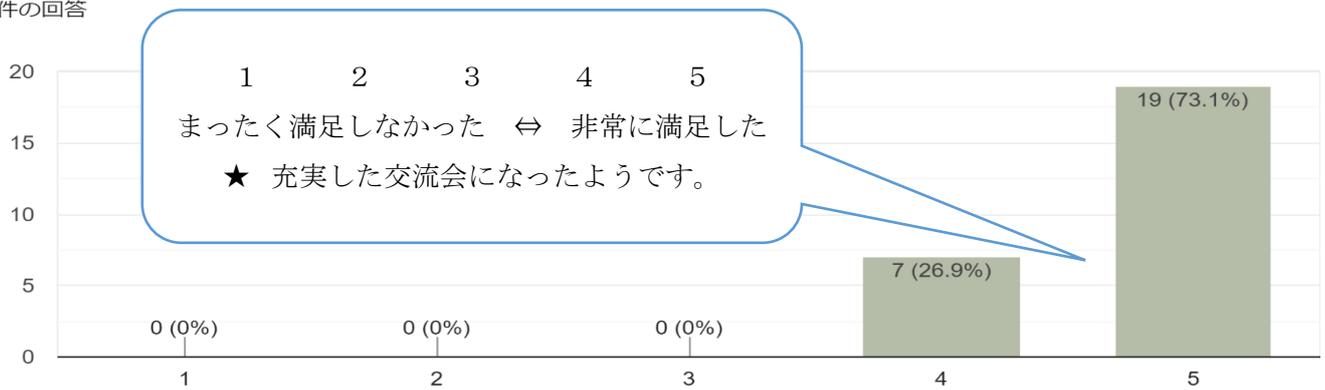
生徒と、英語や日本語、ジェスチャーを交えながらフリートークによる交流をしました。広田小中学校の子どもたちが、時間を忘れて、笑顔でコミュニケーションを図っている姿が印象的でした。

今回の交流会で、子どもたちが感じたこと・学んだことが、国際人としての“種”となり、将来、素敵な花を咲かせてくれることを願っています。当日の子どもたちの様子と、アンケート結果を紹介します。



オンライン交流会に参加しての満足度はどのくらいですか。

26件の回答



(オンライン交流会に参加しての感想)

- ・今回の活動を通して、話す言葉が違っていても思いは通じることがわかりました。とても楽しかったです。
- ・とても良い交流になったと思う。廈門外国語学校のことや中国のことを知れてよかった。英語の勉強にもなったので嬉しかった。
- ・交流前、「20分も話すことができるかな」と不安に思っていたのですが、いざ始めてみると全然そんな事なくて廈門外国語学校の人も日本語で喋られている方もいらっやって、すごいなと感心した。
- ・あっという間に20分×2セットも過ぎてしまって、終わったときには、ホッとしたのと同時に楽しかったという感情になり、この国際交流委員になって良かったと思いました。
- ・廈門側が、日本語が上手だったので少しでも中国語を勉強してみたいと思った。
- ・前もって準備ができ、交流会もスムーズに進むことができてよかった。
- ・私は日本語しか話せないけど相手の中学生は中国語はもちろん、英語も日本語もペラペラだったので私をもっと頑張らなくてはと感じた。

小中連携の深化を目指して・・・。

今年度、小中の連携をさらに深め、子どもたちの学力と豊かな心の育成を図ることを目的として、新たな取組“学習交流”を実践してきました。①中学2年生の職場体験学習を広田小学校で実施、②中学1年生で実施した『ふるさと歴史発見学習』の成果を小学5年生にプレゼンテーション発表、③中学2年生で実施した『職場体験学習』の成果を小学5年生にプレゼンテーション発表、④中学3年生で実施した『修学旅行』の成果を小学6年生にプレゼンテーション発表といった取組です。

中学生は、自分たちの経験や考えを小学生にわかりやすく伝えるか試行錯誤しながら、プレゼンテーションの本質を学ぶことができました。小学生は、中学生の姿に、将来、目標とすべき姿を思い描くことができました。小学生と中学生が、互いに新鮮な刺激を受け、これまでにない新たな学びが実現できたことは、重要な一歩だったと感じています。

間もなく、令和5年度が終わります。今年度も、広田小中学校の教育活動に、ご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。次年度も、引き続き、よろしくお願いいたします。



中学2年生と小学5年生の学習交流

★ 広田中学校のホームページに、小中連携だより（カラー版）を掲載しております。